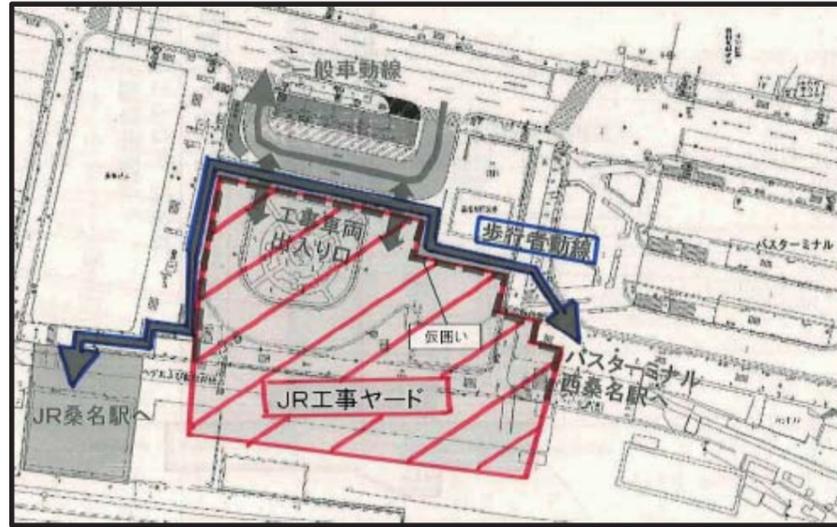


桑名駅周辺の整備情報

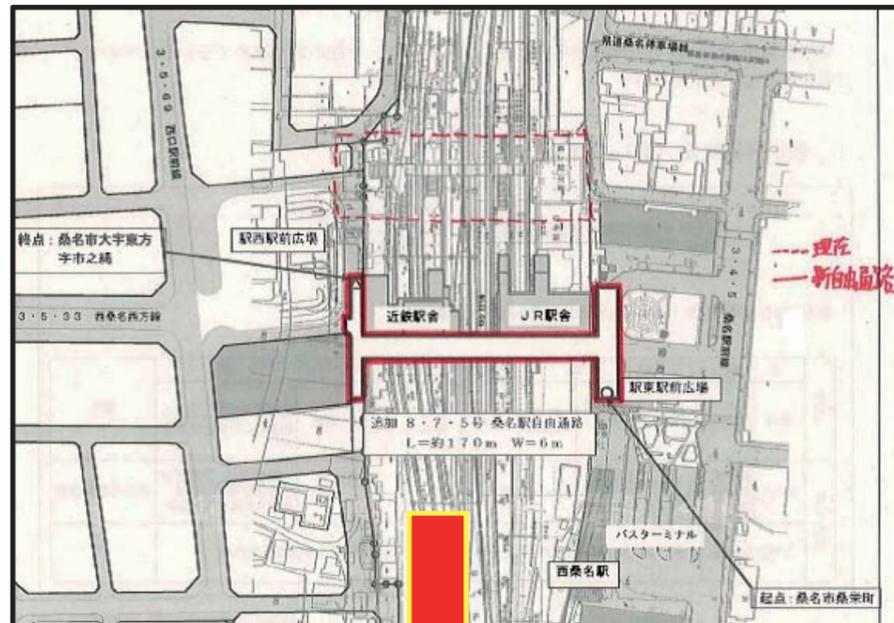
桑名駅自由通路整備事業に先立ち、下記のとおり暫定駅前広場を整備します。

【工事概要】

- ・暫定広場整備
- ・ペDESTリアンデッキの撤去
- ・地中埋設物などの移設など



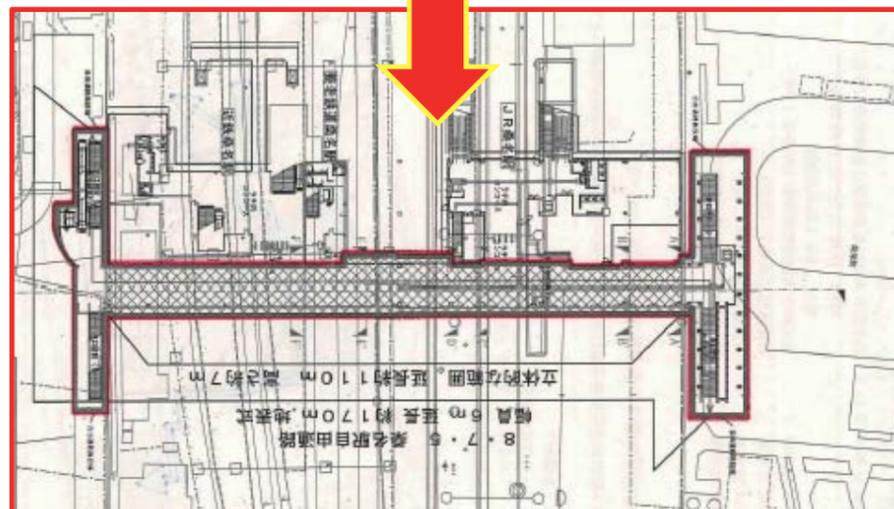
暫定駅前広場供用期間平成29年度月上旬から平成32年度まで(駅東)



今後のスケジュール

- 平成29年度
桑名駅自由通路
整備事業工事着手(予定)
- 平成31年度
自由通路工事完了(予定)
- 平成32年度
自由通路供用開始(予定)
- 平成33年度
既存駅舎等撤去完了(予定)

以上



愛敬重之

愛敬重之公式HP : <http://www.aikyo-kuwana.net/>



後援会だより

2017年1月27日
第35期_後援会46号
発行責任者：愛敬重之後援会
会長 伊藤 久志

会派代表となり初めての代表質疑に臨みました

皆さん、明けましておめでとうございます。平成29年は、フォーラム新桑名の代表となりました。常任委員会では教育福祉委員長に推薦していただきました。



友好都市の白河市、行田市の走友会による絆リレーマラソン開会式に市長と参加

平成28年第4回市議会定例会では、初めての代表質疑に臨みましたのでその報告をさせていただきます。

また、皆さんも関心が高いと思いますが、桑名駅周辺整備情報をお伝えいたします。

代表質疑の内容は以下のとおりです

- (1) 災害対策
- (2) 地域包括ケアシステム構築の取組み
- (3) 健康寿命の延伸
- (4) 小・中一貫教育
- (5) 「ジュニア・サミット in 三重」開催後の施策
- (6) 北勢線・養老線
- (7) ユネスコ無形文化遺産の「桑名石取祭の祭車行事」
- (8) 各事業の市民への周知



1. 「命を守ることが最優先」

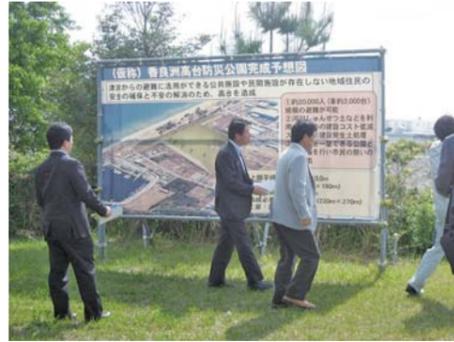
(1) 災害対策

・命山について (答弁者：市長)

南海トラフを震源とする巨大地震による津波などが危惧されていることから、高台などが無い長島地区において、何百年も保つとされる『命山』の整備について、検討を進めている。鉄骨のタワー型は一般的に「津波避難タワー」と呼ばれており、避難施設のひとつであるが、命山に比べ耐用年数が短く、收容人数が少ないこと、また、命山で使用する土については、国・県と連携を図り、工事などで出る残土などを活用できるなどの理由から土を盛って整備する命山を進めていきたい。整備箇所については今後自治会地域の皆さんと協議し決定していく。

・デジタル同報系防災行政無線について（答弁者：市長）

多度、長島地区の既存無線のデジタル化も含めて、支局約10カ所を設置していく。すでに工事も着工しており、現在、城南地区に1基、設置を完了している。また併せて緊急地震速報との連動を図るなど、サブシステムの構築も同時に行ない、防災行政無線の効率的な運用と通信体制の確立を進めていく。丘陵地については、県が土砂災害警戒区域などの指定を進めており、今後はこの区域指定の状況も踏まえ、新たな整備計画を検討していく必要があると考える。



中立議員団での香良洲高台防災公園予定地の視察

答弁に対する私の思い

とくに命山については、中立議員団で津市の香良洲町の高台防災公園を視察してきました。県内にも参考になる施設があるのでよく調査し、人命にかかわる内容なので、整備についてはできるだけ早く情報を出し、地域の方たちと協議し早急に対応いただきたい。

(2) 地域包括ケアシステム構築の取り組み

大山田地区の総合相談窓口開設について（答弁者：市長）

市民からは「そもそも、自分が抱えている問題を、どこに相談していいのか分からない」という声も、よく聞きおよんでいる。まずは、ここに来れば、どんな相談でもできる、困りごとや心配ごとでも聞いてもらえる、そんな「よらず相談所」として、市民が気軽に訪れることのできる相談窓口も必要に感じている。若者支援、つまり若者自身からの相談、あるいはその家族やその周囲の方々からの相談も認識している。複合的な問題の解決に向けては、この相談窓口と市役所内部はもちろんのこと、さまざまな専門機関との連携が必要となることから、継続的に相談支援の体制を充実しなければならないと考える。

答弁に対する私の思い

9月の私の一般質問での「子ども・若者支援」について市長から明確な答弁をもらうことができ、若者の就労相談なども気軽にできるようになると思いました。実現に向け第一歩が達成できました。さまざまな相談を受ける窓口ですので、今後どのような相談があったのか担当者とも情報共有し、支援体制の充実に向け各専門機関との連携強化を図り、また市民の皆さまに窓口を利用しやすいように広報活動にも力を入れていきたい。

(3) 健康寿命の延伸

「健康マイレージ制度」について（答弁者：市長）

幅広い分野で健康づくりに参加しやすい体制を総合的に整えていきたいと考える。「健康寿命の延伸」を目指し、市民の皆さんが元気で生活し続けることができるよう全学的に応援していく。



誰でも参加できる「桑名いきいき体操」

答弁に対する私の思い

市民一人一人が心豊かに生き生きと過ごせるようにしていくためには、単に長寿であるだけでなく、「いかに健康で過ごすことができる期間を長く保つか」が大切だと思います。ぜひ幅広い分野で健康づくりに参加しやすい体制を総合的に整えていただきたいです。

(4) 小・中一貫教育

多度地区モデル校について（答弁者：市長）

多度地区は、合併前から子どもたちを一体的に育てたい、という地域の願いが強い。既存の学校に再編統合するのではなく、新たに設置することが望ましいと考える。設置場所や学年段階の区切り、あるいは予算の課題などについては、今後できるだけスピード感をもって具現化できるように検討を進めていく。

答弁に対する私の思い

市長からは小中一貫校舎は既存ではなく一体型新設校の設置や、スピード感をもって具現化するとの答弁がありました。対象地域自治会にもスピード感をもって情報提供し、今後の対応を協議していただきたいとします。

2. 「世界に向けて開かれたまち」

(5) ジュニア・サミット in 三重開催後の施策

産業観光ツアーについて（答弁者：経済環境部長）

ジュニア・サミット以降、産業観光だけで欧米・アジア方面から6カ国、141名の方に来訪してもらっている。産業観光を軌道にのせるにあたっては、このツアーの中に一般の観光コンテンツをしっかりと入れ込み、桑名の魅力を世界中に伝える。運営にあたっては、現在の産官学の協議会を継続していくことが望ましい。行政は、民間企業のパイプ役、コーディネート業務を中心に行ない、民間企業、ひいては地域をつなぐ役割を果たしていきたいと考える。

答弁に対する私の思い

ジュニア・サミット後、海外からの来訪者が増加しているのは嬉しいことです。しかし企業ツアーでは企業秘密遵守のため、ツアー見学者の情報を早急に見学企業へ照会し確認の必要がある。

3. 「地理的優位性を活かした元気なまち」

(6) 北勢線・養老鉄道

支援・維持について（答弁者：都市整備部長）

平成29年中を目途に、第3種鉄道事業者として鉄道および車両を養老鉄道に無償で使用させ、養老鉄道が引き続き第2種鉄道事業者として運行をになう新たな事業形態に移行させることになっている。アンケートでは、本数増や2次公共交通の接続などあり、需要が見込まれるルートやダイヤの乗り継ぎ案内の作成など、解決に向けた手法を検討していきたい。

答弁に対する私の思い

現在、鉄道を利用していない方も、高齢になり車の運転ができなくなれば、先々必要になることや、お子さんやお孫さんが鉄道を利用して通勤・通学する日が来る可能性もあります。鉄道は地域住民の皆さんにとって必要であり、養老鉄道沿線には多数の観光施設・商業施設が存在しているので、駅からの2次公共交通を利用することなど、さまざまなアイデアで利用促進につなげてもらいたいです。

4. 「桑名をまちごと『ブランド』に」

(7) ユネスコ無形文化遺産の「桑名石取祭の祭車行事」

桑名のブランド力向上について（答弁者：経済環境部長）

市内の各団体と協力して、官民連携の新しい組織を結成し、観光誘致の戦略を立てながら、おもてなし体制を整えていく考えである。情報発信については、桑名石取祭期間中、首都圏メディアを対象としたプレスツアーを開催するなど、桑名石取祭の知名度を全国区にするため東海地方にとどまらず広く情報発信してきた。ユネスコ無形文化遺産登録に向け機運を高めていきたいと考える。



桑名石取祭

答弁に対する私の思い

今回ユネスコ無形文化遺産に登録されたのは、全国で「山・鉾・屋台行事」は32団体あります。どこの団体・地域でも同じようなことを考えています。32団体の中に埋もれることなく、メディア向けの発信や海外向けの発信にも努め外国人の方を含む観光客誘致を一層進めていきたいとします。

5. 「市民への周知」

(8) 市民への周知について（答弁者：市長公室長）

「市長カフェ」「市長とどこでもトーク」なども実施し、市の施策を直接伝えるとともに、市民の皆さんから声も頂戴している。このほか、つねに新しい情報が入手できる「市ホームページ」や県内一のフォローワー数を誇る「桑名市公式ツイッター」スマートフォンでいつでもどこでも広報誌が見られるアプリ「マチイロ」、イベント情報などを紹介する「メルマガ」、桑名駅前サンファールにある「LEDビジョン」庁内にある「庁内モニター」などさまざまな手段、方法、媒体を通じて周知を行なっている。

答弁に対する私の思い

議会報告会では、よく市民から重要な施策については、情報をもっと提供して欲しいという声をいただきます。年代別・対象別など属性に応じた効果的な周知方法についても、調査・研究が必要だと思います。